

石川県立美術館だより

平成13年6月1日発行 第212号

終わりになき記憶の旅

デ・キリコ展

六月一日(金)～二十四日(日)会期中無休
午前九時三十分～午後五時(入館は午後四時三十分まで)
主催 北國新聞社・日本経済新聞社・石川県立美術館



©SIAE, Rome&SPDA, Tokyo, 2001 偉大な形而上学者 1971 油彩、キャンヴァス 個人蔵

目次

一色とかたちー歴代藩主の陣羽織2
中国の絵画と工芸2
終わりになき記憶の旅 デ・キリコ展3
常設展示室 主な展示作品.....4・5
県美Q & A5

美術館小史・余話(11)、企画展示室6
移動美術展、美術館の本他6
企画展TOPIC、各地の展覧会7
六月の行事案内、次回の展覧会7
所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信8

常設展示室 前田育徳会展示室)

特集
一色とかたち一

歴代藩主の陣羽織

5月31日(木)~6月24日(日)

陣羽織とは、武士が合戦の時、具足の上に着用した外被^びです。室町時代中期頃より用いられ、具足羽織や陣胸服などと呼ばれました。形は一般に袖なしのものが多く広袖のものもあります。最初は普通の羽織を陣中で着用していましたが、次第に威厳を示すため人目を引く羽織が作られるようになりました。戦場において寒さや雨露から身を守るため、そして動きやすさを求めて、また、存在誇示や応接の際に威厳を示すために、当時日本に舶載されたラシャやビロードなどの新しい素材を使用して、南蛮的嗜好が強く反映した「デザイン」のものや、奇抜ともいえる自由な意匠による陣羽織が作られました。

江戸時代に入ると陣羽織も実用的なものから儀礼的な服装に変化し装飾的要素が強くなり、前田家歴代藩主の陣羽織も、華やかな色彩、大胆で奇抜な意匠のものが多くなりました。

丸龍に八卦文陣羽織(左下写真)

この陣羽織は十四代藩主慶寧^{よしやす}所用で、白ラシャ地に背の紅日の丸に、力を象徴する龍を刺繍し、裾には八卦文^{はちがは}が切嵌技法で配されています。八卦は直線の変化表現で、右から観世音、普賢、文殊、勢至の菩薩を表しています。

(南 俊英 学芸第一課長)

今回の展示で、最初におことわりしておかなければならないのは、絵画についてタイトルを「中国の絵画」としながら、一部に狩野派など日本の漢画系画派による、中国の故事を画題としたものや、中国の表現様式の影響を強く感じさせる作品も交えていることです。これは、展示予定作品をめぐる状況の変化によるものですが、何卒ご了承くださいたいと思います。

その一方で、このような日本の作品と純粋な中国の絵画を並置することによって、日本の芸術文化の展開を、歴史的に再認識するよい機会となるメリットも確かにあります。

改めて述べるまでもなく、日本において芸術作品の成立は、日常性の「ケ」に対する、非日常性、祝祭性としての「ハレ」を重要な契機としています。そこで、中国の文物が伝統的に国産のものより高く評価されたのは、遠方より運ばれてきたことによる希少性が、非日常性の意識の中に位置付けられたことによるものであると考えることができます。そのことは、日本において中国の表現様式を模倣したものが、造形芸術の諸ジャンルにおいて重要な位置を占めていることとの背景とも考えることができます。

そして今回の展示をとおして、中国の文化が日本の芸術文化に大きな影響を与えてきたのは、この、非日常性を感じさせる情動的な距離が、日中の人的、物的交流の頻度から、近すぎず、遠すぎず、ちょうど芸術的想像力が展開するのにふさわしい距離であったこと。そして、伝世し、歴史的に賞翫^{しょうくわん}されている中国の文物は、まず日本の美意識によって取捨選択されたものであることを再認識することができます。

(村瀬博春 学芸主査)

常設展示室の観覧料は5ページをご覧ください。

常設展示室 第2展示室)

中国の絵画と工芸

5月31日(木)~6月24日(日)



県指定文化財 存星梅竹双鳥図盆

企画展示室(第7~9展示室)
 終わりになき記憶の旅
デ・キリコ展

6月1日(金)~24日(日) 会期中無休

主催 / 北國新聞社・日本経済新聞社・石川県立美術館
 後援 / イタリア大使館・日本におけるイタリア2001年財団・石川県・金沢市
 石川県日伊協会・(財)石川県芸術文化協会・(財)石川県美術文化協会
 NHK金沢放送局・テレビ金沢・エフエム石川・ラジオかなざわ
 ラジオこまつ・ラジオななほ・金沢ケーブルテレビ放送
 協賛 / 協和発酵 協力 / 日本航空



月桂樹とプラタナスのある月明りの自画像
 一九二二年頃 個人蔵

現実にはありえない不思議な風景を描き、「形而上絵画」の創始者となったジョルジョ・デ・キリコ(一八八八―一九七八)。二十世紀のイタリア美術の中でも、もっともなじみ深い作家のひとつであり、マグリット、ダリ、デルヴォーなどのシュルレアリスム絵画の成立に大きな影響を与えるなど、近代的芸術概念の確立に大きく貢献した画家です。しかし、理想の絵画を求め、前衛から古典、そしてまた前衛へと、大きな円を描くように変転したその画業は、謎と孤独に彩られたものであります。

一九一〇年代の絵画

都市・マネキン・内部と外部

この時期、デ・キリコは、パリとフェツラーラ(イタリア)で後に「形而上絵画」として知られるようになる幾何学図形で構成された人物、落ち着かない不安な空間など、謎に満ちた世界を描き出します。

一九二〇年代 シュルレアリスムのパリ

一九二五年、デ・キリコは、パリに落ち着き、有力な画商たちの知己を得、また詩人達の支持を受けるなど、もっともシュルレアリスム的なシュルレアリストとなります。

一九三〇年代 ヨーロッパからアメリカへ

間奏曲 リトグラフ

成功と失敗、空間と時間の旅、この年代はイタリアへの愛情と幻滅の十年間であり、またアメリカ征服の時期にあたります。

一九四〇から五〇年代 バロックとロマン主義の実験
 第二次世界大戦の直前と直後、デ・キリコは作品の

様式と文化的な興味、関心に変化が生まれ、これまでのようにギリシャに固執せず、むしろドラクロワ、ジエリコ、ルーベンスやエル・グレコなどに関心を抱きます。

一九六〇から七〇年代 起源への回帰

「新形而上絵画」の時代。デ・キリコは一九一〇年代のテーマを再び取り上げ、パリをフェツラーラに、広場をマネキンに、そして記憶を夢に組み合わせた作品など、過去の「主題の変奏」を行う作品を発表します。

紙に書かれた作品

デ・キリコの素描作品は、しばしば油絵として完成されず、結果的に独特の独立した作品となっています。

舞台美術

舞台装置と舞台衣装のためのスケッチ。それらは、常に舞踏のイメージに翻訳する役割を担っており、ここではこの時期の素描作品を展示します。

以上、本展覧会は形而上絵画の原点とされる一九一〇―二〇年代の作品から、様々な形態を模索し、変貌と研鑽を重ねながら原点に回帰した晩年までの作品約百点を、七つのテーマに分け、謎に満ちたデ・キリコ芸術の軌跡をたどるものとして展覧いたします。

(末吉守人 普及課長)

観覧料

一般	1,200円	個人	一般	900円	団体(20名以上)
中・高生	800円		中・高生	500円	
小学生	500円		小学生	300円	

当館友の会員は受付での会員証提示により、団体料金でご覧になれます。



月と太陽 一九一七年頃
 水彩・テンペラ・紙 個人蔵



友禪白地紫陽花文訪問着「清裳」
羽田登喜男



菱文時絵平卓
松田権六

一般 350円	個人	観覧料
大学生 280円		
高校生以下は 無料		
一般 280円	団体(20名以上)	
大学生 220円		
高校生以下は 無料		

観覧料

このページでは主な展示作品を掲載しています。各室ではこれらのほかにも多数の作品が展示されています。(第1展示室は色絵雉香炉一点のみ)。

坂に建つ街

流

拾牛図

触倉島夕磯

二人

おぼろ夜

遙か

光

ボクサー

龍田姫之図

虞美人図

春の女神

水炎

第6展示室(日本画)

桑造金銀縮れ線象嵌飾棚

竹組長角盆

櫻造盛器

白銅浮彫「豊穰なるライン」

木竹工

砂張銅鑪

神韻大香炉

金工

柄分一本縞付下譜

友禪白地紫陽花文訪問着「清裳」

山本知克

曲子光男

羽根万象

橋本関雪

中村徹

中町進

中出信昭

鹿見喜陌

坂根克介

紺谷光俊

越塚友邦

梅川三省

上田珪草

氷見晃堂

橋本仙雪

川北良造

蓮田修吾郎

高橋介州

金岡宗幸

堀友三郎

中儀延

羽田登喜男



ボクサー
坂根克介



櫻造盛器
川北良造



神韻大香炉
高橋介州

県美 Q&A

参加を希望される方が毎回大変多いため、実施一週間前に参加希望者全員の立会いのもと、厳正な抽選により参加者(四十五名)を決定しています。そのため抽選会参加者以外の方のお申し込みはお受けしておりません。でもくじ運(！)が強く、毎年のように参加されている方も少なくありません。今年度の見学先、実施期日はまだ決まっていますませんが、実施予定月の前月に発行される美術館だよりにご案内いたしますので、もうしばらくお待ち下さい。

A

文化財現地見学は、九月下旬から十一月にかけて一泊二日の日程で実施しています。年一回だけの開催ですが、各地の美術館巡りや、観光コースから外れた、普通の旅行ではなかなか足を運べない場所などを盛り込んだ、自主企画ならではのコース設定で、毎年好評を博しています。行き先は関西方面が多く、通算三十回目となった昨年度は、「乙訓・洛南の文化財を訪ねて」(見学地は京都の乙訓寺、アサヒビル大山崎山荘美術館、安楽寿院、法界寺など)と題して十月中旬に実施されました。

Q

文化財現地見学はいつ頃実施されるのですか。また、参加するにはどうすればいいのですか。

文化財現地見学に参加したい！

美術館小史・余話

11

嶋崎 丞すまむ 当館館長

旧石川県美術館の設立は、昭和三十年代前半の県財政の厳しい時代にあつて、当時の田谷充実知事が、県民の強い要望を受け入れて、全力投球で建設したためか、思い入れが殊の外深く、その所管はずっと知事部局の総務課に置かれていた。従つて『だより』第二〇号で述べた如く博物館法でいう教育委員会の所管でないため、「相当施設」という位置付けであつた。ところが昭和三十七年末に田谷知事が急逝し、同三十八年一月の豪雪の最中に選挙が実施され、中西陽一副知事(当時)が当選して知事となつた。

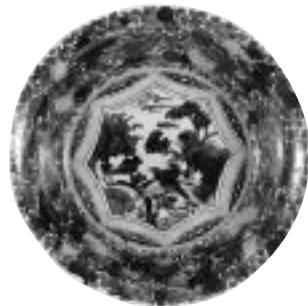
中西知事は、いふなれば自治省出身の官僚であり、法に合せて行政は執行すべしとの考え方から、美術館は同年四月一日付で教育委員会社会教育課の所管となり、晴れて「登録博物館」となつた。そこで社会教育の機関として新しくスタートする意味においても、それにふさわしい内容の企画展を開催しようということになり、いろいろと議論がなされた。その結果、加賀藩主であつた前田家のコレクション、東京の前田育徳会が収蔵する美術品の公開が最適であるということになり、四月二十八日から二週間、北陸中日新聞と共催で、初めて全面的な公開が実施されたのである。当時の記録を見てみると、国宝十六点、重文二十一点を含む計百十一点の豪華な内容であり、初めて全館を使用して開催し、入場者も四万人という新記録を作つた。

登録博物館となつて

移動美術展

六月下旬に輪島市で開催!!

今年の移動美術展は、輪島市の石川県輪島漆芸美術館で開催されます。輪島では第二巡回目の展覧会で、今回は県文の色絵百花散双鳥図平鉢など古九谷三点を含め、古美術から近現代美術までの陶芸・金工・日本画・油彩画・彫刻の全五十四点の展示を行います。



色絵百花散双鳥図平鉢 古九谷

当館の古九谷が能登で展示されるのは初めてのことで、今から話題を呼びそうです。輪島はもちろんな、能登各地からのご来場をお待ちしております。

会場 石川県輪島漆芸美術館
会期 六月二十三日(土)～七月二日(月)
入場料 一般二〇〇円
主な展示作品
色絵百花散双鳥図平鉢 古九谷
鉄打出鳩置物 山田宗美作 他五十二点
= 県指定文化財

貸出中の所蔵品

輪花「花器」 大橋長左衛門(年朗) 計一点

展覧会 現代日本美術を築いた作家展 2
会期 五月十九日(土)～七月八日(日)
会場 なかみ現代工芸美術館(山梨県中富町)

(美術館の本)

石川県立美術館所蔵品図録	税込定価(円)	三、五〇〇
没後10年 高光一也展		二、〇〇〇
石川県立美術館所蔵 茶道美術名品図録		二、五〇〇
加賀藩 代藩主前田利長の菩提寺 瑞龍寺展		二、三〇〇
15～20世紀のロシア美術 イコンと絵画		二、〇〇〇
日本のわざと美展 重宝無形文化財とそれを支える人々		二、〇〇〇
前田利為と尊經閣文庫		二、〇〇〇
墨の表情 近代日本画にみる名作		一、八〇〇
工芸作品と図案 創造への思考		二、〇〇〇
前田利為没後400年 利家が著した 桃山時代の美術		二、五〇〇
没後25年 写実と幻想の巨匠 宮本三郎		二、三〇〇
初公開 欧州随一の日本美術コレクション ランゲン夫妻の眼		二、〇〇〇
石川県立美術館所蔵 九谷名品図録(改訂版)		二、〇〇〇
没後15年 一期は夢よ 鴨居玲展		二、〇〇〇
彫刻家 吉田三郎		二、〇〇〇

ミニージャムショップで販売中!!
郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。
(076) 231-7580

企画展示室

第31回彫北陸展

六月二十九日(金)～七月三日(火) (第7・8・9展示室)
日本彫刻会は、清新にして健全なる芸術の振興を期し、公募による日彫展を開催し、一貫して新人の育成と造形芸術の向上に力を尽しています。本展は、四月に東京都美術館で開催した第三十一回日彫展の作品から、芸術院会員をはじめ日彫会役員の秀作、受賞作を中心とする基本作品六十点と、石川・富山在住の会員、一般の地元作品四十点、計百点を選び展示します。
橋本堅太郎(芸術院会員・理事長)の「希」など、わが国を代表する作品がそろう。地元では、得能節朗(北陸日彫会会長)の「祭だ、祭だ」、努力賞を受賞した中川伸明(石川)の「パンダナの女」などを公開します。

入場料 一般五〇〇円 大高生三〇〇円 中小生二〇〇円
(団体料金は各一〇〇円引き)
当館友の会会員は会員証提示により団体料金
連絡先 金沢市弥生一 一六二八 得能節朗
076-241-7554



肖像
ガレの肖像
ルイ・エスター
ナンシー派美術館所蔵

企画展TOPIC

エミール・ガレ

当館では「花と装飾 ナンシー派展」の開催を九月一日から予定しています。金沢市の姉妹都市でもあるフランスのナンシー市は、十九世紀末から二十世紀初めにかけ、ガラス細工や木工品などの装飾芸術でアー・ヌーヴォーの一拠点となった町です。特にエミール・ガレがマジヨレル、ドーム兄弟らとともに始めた近代工芸運動のことをナンシー派と呼んでいます。そこで今月からナンシー派ゆかりの人物を三回に分けてご紹介しましょう。

ガラス工芸家エミール・ガレ（一八四六～一九〇四）は北部フランス、ナンシーの生まれです。父はガラス業・製陶業を営んでいました。若い頃には、ナンシー帝立高等学校で哲学、修辞学、古典などを学び、文学に深く傾倒します。また植物学にも興味を持ち、暇を見つけては植物のスケッチをしていたといわれます。卒業後は二度のドイツ留学で哲学、鉱物学、彫刻、絵画を学びました。

一八六四年、父の工場に入って陶器やガラス器のデザインを担当しますが、本格的なガラス技術と会社経営法を学ぶため、六六年からさらに一年間、マイゼンタールのガラス工場で修業を重ねます。その後ロンドン滞在を経て、七四年にナンシーでガラス工房、八六年には寄せ木細工の家具工房を開きました。

それからの活躍はめざましく、一八八九、一九〇〇年のパリ万国博覧会をはじめ多くの国際展に出品し、世界的な名声を得ます。そして一九〇一年には、ナンシー派と呼ばれる近代工芸運動を開始、アル・ヌーヴォーの一拠点を打ち立てました。

と同時に当代一流の文化人との多彩な交友関係を持ちつつ、傑出した表現者または企業家としてその才能を開花させるのです。

初期のガレのデザインは伝統的なロココ様式をふまえたものや、花鳥草虫をエナメル絵付けしたものなどでしたが、八五年の日本人画家高島北海（次号で紹介）との出会いがガレを大きく変えました。徹底して花鳥草虫をモチーフにした、日本的要素の強い作品が多くなっていきます。こうした様式は、被せガラスなどの様々な技法とあわせて、その後次第にヨーロッパ各地で模倣されるようになります。

* 十九世紀末ヨーロッパに興った建築・工芸の新様式

次回の展覧会

- 特集 橋本雅邦筆「四季山水図襖」
（前田育徳会展示室）
 - 特集 古九谷・再興九谷名品展
（第2展示室）
 - 特集 坂寛二・坂坦道 油絵と彫刻
（第4展示室）
- 六月二十八日（木）～七月二十四日（火）

各地の展覧会

- 開催日程 休館日 内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。
- 暮らしに美術を ーたとえは魯山人と共にー 7/1まで
世田谷美術館（東京都世田谷区・〇三三四二五六一〇二一）
 - 明治美術再見 日本画・江戸の名残・京の薫 6/17まで
富内庁三の丸尚蔵館（千代田区・〇三三三三三三三三三）
 - 茶の美展 ー肥後細川家伝来・永青文庫の名品 5/25～6/24
富山県水壺美術館（富山市・〇七六一四三三三三七一九）
 - 石黒宗麿の芸術展 7/1まで
新湊市博物館（新湊市・〇七六一八三三〇八〇〇〇）
 - ルノワール展 異端児か巨匠への道 1870-1892 6/24まで
名古屋美術館（名古屋市中区・〇五二二二二二二〇〇〇〇一）
 - 生誕100年記念 浦生野を愛した画家 野口謙三展 6/9～8/19
滋賀県立近代美術館（大津市・〇七七五五五二二二二）
 - ーガラス工芸の美ー ルネラリック展 6/17～7/22
岐阜市歴史博物館（岐阜市・〇五八二二五五二〇〇〇〇）
 - 宮崎豊治 ー眼下の庭ー 6/21～7/22
国立国際美術館（吹田市・〇六一六八七六一二四八二）
 - 華麗なる18世紀イタリヤヴェネツィア絵画展 6/27～7/29
京都市美術館（京都市左京区・〇七五七七七一四二〇七）

六月の行事案内 《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
6/2(土)	土曜講座	名画への挑戦 1 モナリザ （村瀬博春 学芸主査）	講義室
6/3(日)	月例映画会	近代絵画（34分）	ホール
6/9(土)	土曜講座	江戸時代の禅宗と禅宗美術 （北澤 寛 学芸主任）	講義室
6/10(日)	月例映画会	セザンヌ その孤独なまなざし （北澤 寛 学芸主任）	ホール
6/16(土)	土曜講座	日本の金工 9 （南 俊英 学芸第一課長）	講義室
6/17(日)	CDコンサート	バッハのカウンタータ（約45分） J.S.バッハ カンタータ第5番「われはいずこに逃れるべき」 カンタータ第6番「われらと共に留まりたまえ」（約45分） 指揮：ニコラウス・アーノンクール 演奏：ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス他	ホール
6/23(土)	土曜講座	保存のほなし 収納箱 （宮 衛 学芸第二課長）	講義室
6/24(日)	月例映画会	セザンヌ その孤独なまなざし 南仏の一刻の夕立（23分）	ホール
6/30(土)	土曜講座	常設展示室内 橋本雅邦筆「四季山水図襖」をめくって（要入場券）（村上尚子 学芸員）	講義室

全館休館日は六月二十五日（月）～二十七日（水）です。



沈金猫文「けはひ」飾笥

前 大峰

明治23年(1890)~昭和52年(1977)

昭和38年 1963

幅13.9 奥行26.8 高6.2(cm)

楕円形の、いわゆる小判型の箱の蓋表に、何かの気配を感じた猫の瞬間の動きを見事に凝縮しています。作者の猫好きはよく知られており、早くも昭和九年の第十五回帝展に入選した作品にも取り上げるなど、猫を主題にした作品は多く作られています。その中でも、ほぼ同様な作品が東京国立近代美術館と石川県立輪島漆芸技術研究所にも所蔵されており、作者にとつて最も愛着のある形体と構図だったということが言えるでしょう。

作者は、当初線彫りしかなかった輪島の沈金技法に、新たに大小・粗密・深淺を巧みに組み合わせ、点彫りの手法を創案することで、これまでにない遠近感や立体感豊かな世界を表現することに成功しました。本

作では漆黒の地に、ひげとまつ毛を線彫りとした以外はすべて点彫りで表わされており、沈金技法の第一人者としての作者の技量が遺憾なく発揮された傑作と言えます。また、体毛や尾などの表現はまさに点彫りならではのものです。作者の技量が全面に冴えわたった、まさに代表作と呼ぶにふさわしいものでしょう。

前大峰は、明治二十三年に輪島市に生まれ、昭和五年の第十一回帝展に初入選以来、作家としての地位を早くから築き、三十年には沈金で国の重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝に認定されました。五十二年に亡くなるまで、後進の育成にも尽力するなど、石川県の工芸界の指導者としてその果たした功績は大きいものがあります。

(寺尾健一 学芸専門員)

ミュージアムショップ通信

先頃終わった吉田三郎展は、展示室にただよふ凜(りん)とした雰囲気の中、力強く、とても見応えがありました。そして今月には不思議な絵で知られるジョルジュ・デ・キリコ。楽しみにしている人も、きっと多いのでは？

さて今回の紹介グッズは、お店に入つてまっすぐ奥の棚の一角にある「織部分銅形湯飲」(丸谷焼)です。口のあたりを分銅の形にして、キュッと胸を引き締めたところが、何ともいい味を出していますね。この湯飲みモデルは館所蔵の「織部分銅形火入」(左写真上)です。慶長年間(一五九六~一六一五)美濃は久尻、元屋敷窯の産で、織部焼の秀作です。

織部焼といえば、大名茶人古田織部(一五四四~一六一五)の指導によって焼かれたもの。異国風、幾何学的文様など斬新なデザインで知られています。この「火入」の方は、もともと懐石道具の向付として作られました。でもちょっと大振りなので、火入れとして伝わったようです。ショップでは湯飲みとして置いてあります。が、しかし、お客様の中には、火入れとしてお求めの方も少なくないんですよ、やはり…。



織部分銅形火入
桃山時代



織部分銅形湯飲
(定価9,000円)

休館日

六月二十五日(月)~二十七日(水)

石川県立美術館だより

第二二二二号 平成十三年六月一日発行

〒九二〇〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(三三)七五八〇
FAX 〇七六(三三)四九五五〇